

心不全について

心不全という病気を知っていますか。心不全とは心臓がうまく働かないため、体に不都合が生じた状態をいいます。専門的に言えば心臓のポンプ機能が低下し、全身の各組織が必要とするだけの血液を拍出できない状態です。

図1



循環器内科 大野 則彦

山形大学1993年卒業、医学博士
一般社団法人日本内科学会認定総合内科専門医、
一般社団法人日本循環器学会認定循環器専門医

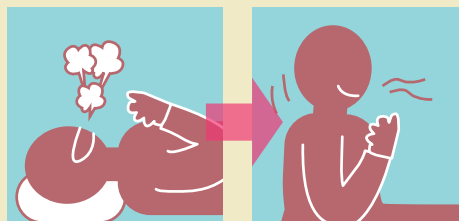
原因

心筋梗塞、拡張型心筋症、僧房弁閉鎖不全症などの弁膜症、心房細動などの不整脈、他様々な心臓病が原因となります。高血圧が原因でなることもあります。つまり心不全は単一の疾患ではなく、いろいろな心臓病が進行した結果生じた心臓の終末期的状態と言えます。

症状

息切れや呼吸困難、むくみなどですが(図1)、横になると苦しくなり、起き上がると楽になるといったものもあります(図2)。これは胸に水がたまる(胸水といいます)ために起きる起坐呼吸という症状です。また咳も症状の一つで、咳が続くため風邪だと思っていたら心不全だったというケースも良くあります。

図2 起坐呼吸



治療

薬物治療が主体となります。体内に貯留した体液(胸水、腹水、浮腫)が症状の原因となるので、体液を除去するため利尿剤を使います。利尿剤で尿量を増加させ、過剰な体液を体外へ排出するので、胸水や肺うっ血がなくなれば、息切れや呼吸困難は改善します。しかしこれで治療は終わりではありません。再発予防や、心不全進行抑制、心臓保護を目的としてアンジオテンシン変換酵素阻害薬、アンジオテンシン受容体拮抗薬、β遮断薬といった薬を長期にわたり服用します。これらは降圧薬として知られていますが、心不全患者さんにおいては前記のような目的で内服しているため、血圧が高くないからと言って中止してはいけません。使用しないと予後が悪化する事が大規模な研究で証明されています。

水分摂取と塩分制限

なお心不全患者さんは水分制限をしなくてはならないと思われるかもしれませんが、重症心不全でない限りその必要はないと思います(もちろん摂りすぎはいけません)。それよりも塩分制限の方が重要です。塩分を過剰にとると体液が貯留するからです。5g/日程度までの摂取を心がけると良いでしょう。

ご予約・お問合せはこちらへ

電話予約
04-7123-5901
月曜日～土曜日 9:00～16:00
ただし、祝日および病院指定休診日を除く

kikkoman

キッコーマン総合病院

〒278-0005 千葉県野田市宮崎100
電話04(7123)5911(代) FAX 04(7123)5920
<http://hospital.kikkoman.co.jp/>